

中津川市総合計画審議会
第4回産業部会要旨

平成25年10月21日(月)
午後3時00分 開 会

部会長あいさつ

1. 第3回産業部会の意見の取りまとめについて

(岡山部会長) 行政とは違った切り口で取り組むことができた。先回の行政から提出された資料に基づいて出された意見をもとに、事務局がまとめたので説明願います。

～事務局 資料説明～

(岡山部会長) 感じるのは、地域には複合的な問題が多いのに行政は縦割りであるということ。これは部会を超えてどこかで提案しないといけない。特に農業と林業で国がやろうとしている政策でいけるのか見通せない。中山間地域では乖離がある。行政も迷っていると感じる。民間が提案してモデル地域を作って、中津川ブランドを作っていく必要がある。6次産業化を推進して過疎化を防ぐ政策が必要だと思う。どこかの場所を選定して、農業と林業が取り組む必要があると思う。

(足立委員) 国の政策は、平たんな土地を想定して考えているので、考え方に乖離がある。中山間地域では国の政策ではできない。例えば5町歩の規模でないとできないなど。場当たりのではなくて、モデル地区を作ってひのき舞台に出てもらうのがベターだと思う。

(鷹見委員) 所有者が林業から離れていく。林業の収穫は四、五十年の3代にわたる。地籍調査を早く実施してもらって、農業と林業が一体となった里山整備をすることが重点課題だと思う。

(岡山部会長) 行政でやろうとしてもできないので、小さいところのできそうな場所で、横の連携で作ったモデル地区が提案できる。

(鷹見委員) 林業は50haから100haの単位になった。サイクルがまわせれば、外材を入れなくてもいい。

(岡山部会長) 単位も探し当てていって、行政の背中を押す工夫がいる。
部会の枠をはみ出すことも必要かもしれない。

行政も担当課別の解決から、複合的な解決にしないといけない。

(鈴木委員) 行政が垣根を超すことはできない。これは人事が3年で替わるため。行政は専門家を作らないとだめ。行政には長期プランがない。人事から変えないとだめ。
行政と民間の役割をはっきりさせて、目標を持たないとだめ。

(岡山部会長) いい意見が出てきているので、単品ではなく行政の枠を超えてやることを提案したい。9者会議の場で行政の縦割りに弊害があることを提案したい。

(鈴木委員) 人事が3年で替わるから、市に任せれば提案も紙切れで終わる。

- (岡山部会長) 縦割り行政の打破と財政をかみ合わせたものはどこでどう上げていくか。
- (鈴木委員) 行政が受け皿を持っているか、はっきり言ってもらおう。
- (岡山部会長) 先ほどの話をまとめて部会の提言として作る。農業と林業で、基本構想は12年というものの10年でモデル地区を作る。
- (鈴木委員) 農業と林業の人口が増えてくると商業、工業はおのずと増えてくる。
- (岡山部会長) 行政の役割だけ明確にすれば商業と工業は民間がやっていくが、行政が方向性を定めるのに農業と林業は大切なものになる。
- (鷹見委員) 林業の従事者が農業の担い手にもなれば、農業と林業の一体の担い手ができる。
- (岡山部会長) 定住にも関わってくる。
- (鈴木委員) 林業従事者の年俸はどれくらいか。
- (鷹見委員) 400万円くらい。
- (鈴木委員) 20人集めても8千万円でできる。
- (浅井副部会長) やってみるにしろても、農業にはいろいろ規制がある。農業従事者になるのも難しい。
- (足立委員) クリアできると思う。営農組合であればできる。
- (岡山部会長) 全部当てはめるとできないので、行政の手の負える範囲の中でお願ひします。
- (足立委員) 農地の草刈りなど、林業の分野でやってもらえるとありがたい。
- (浅井副部会長) 農業と林業の一体的な取り組みを行うのに、何が阻害要因か見出し、自ら明らかにすることも必要。
- (足立委員) 法令、条例のチェックを検討して進めないといけないということか。
- (浅井副部会長) そうです。
- (岡山部会長) 人口減少に歯止めをかける対策が農村は大事。
- (浅井副部会長) 田口委員が言った意識改革が大事。10年スパンでやるなら意識改革にも挑戦する必要がある。
- (岡山部会長) 与えていた政策から引き出す政策に変えることを提言していく。自分たちがやるのに阻害となる制度を行政に見直してもらおう。
- (鈴木委員) 具体的方向を出さないと市のペースになるので、気を付ける必要がある。
- (岡山部会長) 移住定住の立場からお願いします。
- (浅井副部会長) 中津川市への転入者で、本籍が中津川市の20代、30代の人は数年間の平均でみて三百数十人。転入者は約二千人。三百五、六十人の戻ってくる人を大事にする施策が必要。農林業のウェイトの高い郡部ほど定住志向が強い。
- (足立委員) JAも戻って就職する人が多い。
- (浅井副部会長) 今が千載一遇のチャンスかもしれない。今は親孝行の世代。帰ってきたい人は思ひのほか多いのかもしれない。
- (岡山部会長) 移住定住の一部分をとらえて、移住定住が産業部会に入っているのは疑問がある。出生に対して的確な手立てを打っていない。部でくれないはずなのにくくっていることに問題がある。若者が残る、戻る政策を打たないといけない。縦ではなく横にやっていく。出生は長期、短期的には移住。縦割りを超えた行

政の対応が必要。ここは強く提言しないといけない。大事なところは格上げしていい。

商業、工業についてお願いします。

(鈴木委員) 工業は心配していないが、商業は自動車の普及によって形態が変わり、勝ち組、負け組ができています。商業は高齢化している。

(岡山部会長) 商業、工業は民間の力を引き出すことに重点を置く。民間力を引き出す区分けを明確にしないといけない。地域産業の保全に目を光らす。人材育成がすべてに当てはまる。行政は人づくりに力を入れてもいい。起業精神を作らせる必要がある。

(浅井副部会長) 民が主導だが、議論を詰めて役割を明確にする。できるだけ民間が中心になる。

(鈴木委員) 行政も民間も勉強に行っていない。

(岡山部会長) 人に対する投資が行政に欠けている。人づくりに力を入れないといけない。

(浅井副部会長) 消費者としての市民のレベルアップも必要。

地産地消は諸刃の剣の部分がある。競争がないのでコスト高になる。工業よりも商業のほうが課題がある。

(岡山部会長) 観光についてお願いします。

(鈴木委員) 2つに分けて整理する必要がある。施設を整理して個性を出して地域ごとにやる。第三セクターを2、3年で明確にする。商店街をどう行政がとらえているか。狭いところは地産地消でやる。チェーンストアやフランチャイズなどの店舗を受け入れることがいいかどうか。

(浅井副部会長) チェーンストアやフランチャイズなどの店舗が入るとたくましくなる。施設は活用するか売却するか考えないといけない。

(岡山部会長) マスタープランの説明会で廃止の判断は誰が行ったか聞かれ、コンサルだと答えてしまった。もっと地域力を引き出す考えがないといけない。

(鈴木委員) 施設でいえば、川上の夕森の施設は老朽化していて危険。地域活性化といいながら施設の管理ができていない。行政は何が活性化かを理解していない。

(浅井副部会長) 行政が認識すべきリスク。手が回らないほど管理対象を増やすべきではない。

2. 産業部会の考える将来都市像について

(岡山部会長) 産業部会の考える将来都市像について、今までの審議の内容から事務局が作成したので、説明願います。

～事務局 資料説明～

(安藤由美子委員) 久留米と美幌の人と話す機会があったが、栗きんとんがある中津川市を知っていた。栗きんとんはブランド化している。観光としての関連です。

(鷹見委員) 地籍調査が気になってしょうがないので、うまく文書化できないか。

(岡山部会長) 地籍調査の関係を入れます。地籍はどれくらい進んでいるか。

(鈴木委員) 旧市は5%くらい。

(木村企画財務課長) 文書の構成は浅井副部会長にアドバイスをいただいて作成しました。

(浅井副部会長) あるべき姿を先に書いてもらった。

(岡山部会長) 地籍調査を入れる工夫をしてください。取りまとめをして6者会議に提出します。

(浅井副部会長) それまでにチューンアップしてください。

(岡山部会長) 部会の名前と部会長の名前を書いてください。

今後の取り組みで枠を超えた部分で伝えないといけないことは、行政の縦割りの撤廃。横で政策を作る。若者定着、辺地の産業振興の観点からいくとそういう提言も必要。

この部会としての意見としてお願いします。

(浅井副部会長) 整合性を確認して、関連性の指摘まで部会でやってもいい。原案ができれば5回目を計画したい。

～第5回目の部会で微調整、原案を審議する～

(木村企画財務課長) 9者会議には未定稿で出すことになりますが、よろしいでしょうか。

(岡山部会長) 未定稿で出すことについてはよろしいか。

～異議なし～

(岡山部会長) 第5回目でそれを確認します。

(鈴木委員) 市の考え方はいつ出すのか。

(岡山部会長) 審議会では行政主導にならないように、自分たちで作ることになっている。

～次回産業部会は、11月の中、下旬に開催と決定する～

(岡山部会長) 手法についての切り込みを伝えていくことを盛り込む。

午後4時59分 閉 会

平成25年12月20日

産業部会長 岡山 金 年